

【問題意識】

- 米国ではIoT関連ビジネスが活発に展開し、ドイツでは第4次産業革命の取り組みが中小企業でも活発である。
- 一方、日本ではセンセーショナルな報道の中、地域企業の多くは第4次産業革命やIoTの本質が「腑に落ちず」、足元で何から取り組めばいいかわからず、ビッグデータ・Virtual Reality、人工知能等の要素技術のみが協調され、経営・生産全体における取り組みがなされていない状況である
- 日米欧の第4次産業革命、IoTに対する意識、取り組みの差はどこから来ているのか。また、日本の地域産業が生存、進化していくための方策はなにか？

【アプローチ】

- 九州ものづくり企業及びその関連企業へ第4次産業革命を契機とした事業機会を発見するための情報提供を行うこと、及び九州地域産業活性化へ向けた政策検討を行う

【アウトプット】

- ① IoT・第4次産業革命におけるビジネス展開に関する地域企業の「気づき」への情報提供
- ② 地域産業がIoT・第4次産業革命に対応していくため基盤や環境整備に関する提案
- ③ IoT・第4次産業革命に対して九州の強みを活かしていくための方策の提案